

# 農耕作業用自動車（農耕作業用の小型・大型特殊自動車） の交通死亡事故発生状況と主な事例等について

平成31年3月  
警察庁交通局交通企画課

（注）本資料は、農耕作業用自動車（農耕作業用の小型・大型特殊自動車）に乗車中（運転中又は同乗中）の交通死亡事故を分析したものである。

# 1 農耕作業用自動車の交通死亡事故 ～ 交通死亡事故件数の推移、事故類型 ～

図 交通死亡事故件数の推移(平成26年～平成30年)

### 交通死亡事故件数の推移

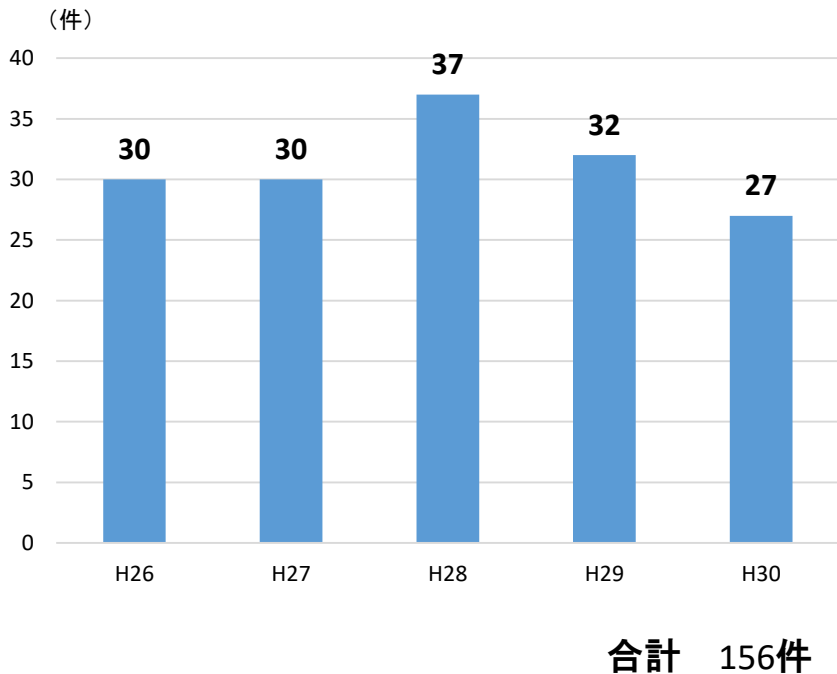
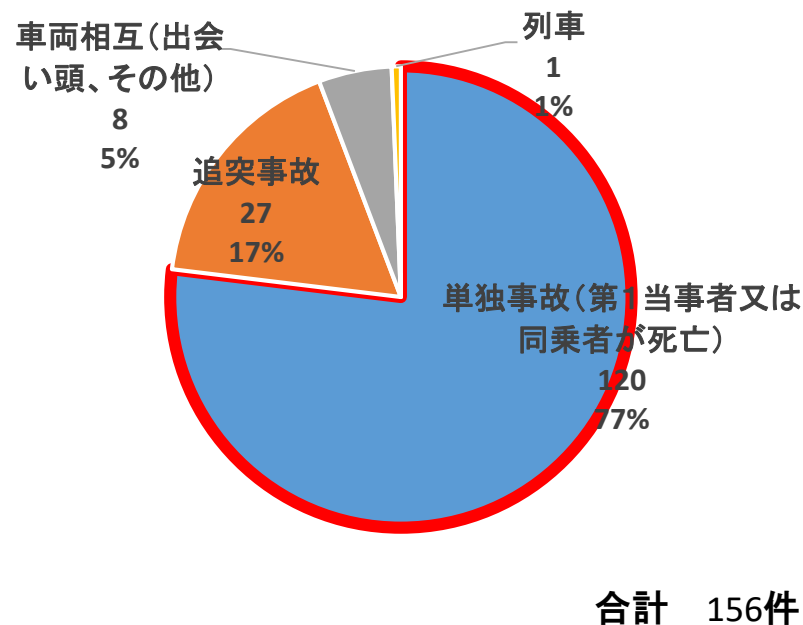


図 事故類型別件数(平成26年～平成30年合計)

### 事故類型別件数

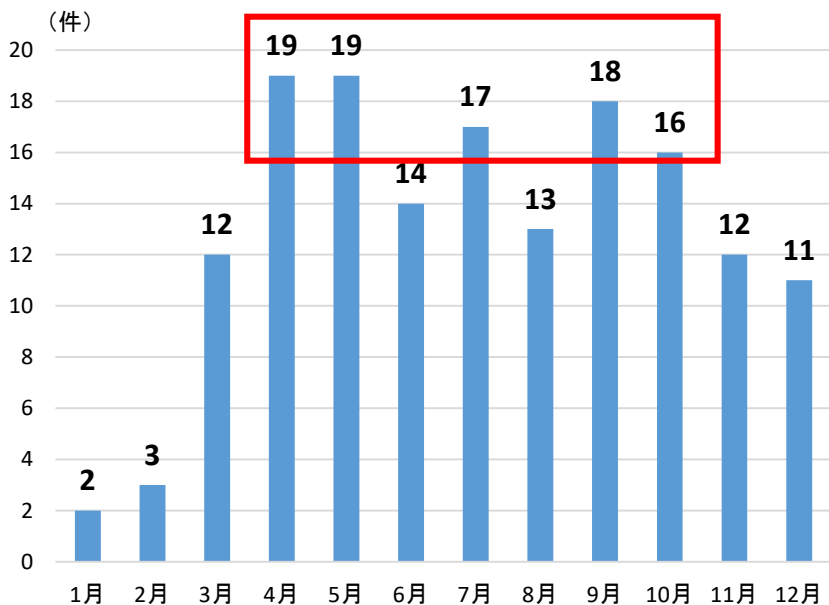


## 2 農耕作業用自動車の交通死亡事故

～ 月別発生状況、時間帯別発生状況 ～

図 月別死亡事故件数(平成26年～平成30年合計)

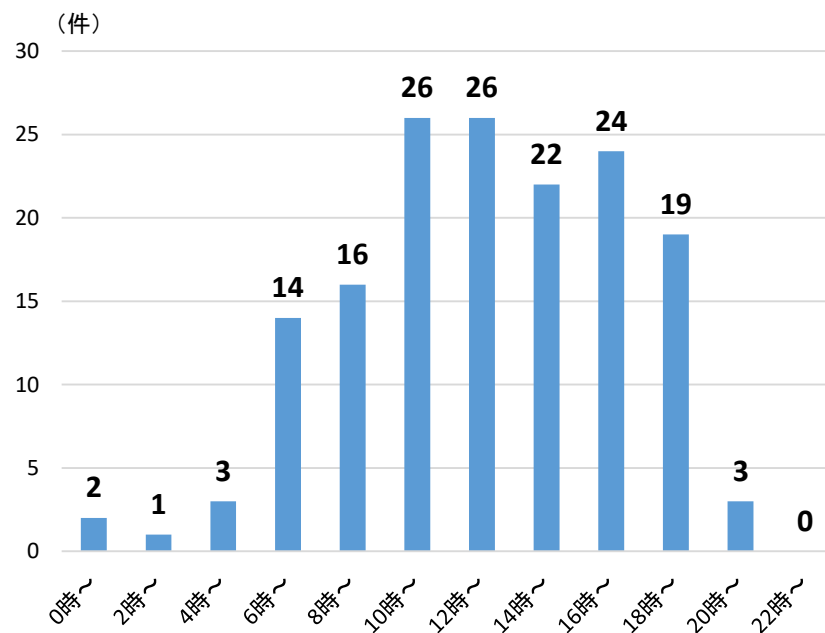
### 月別の死亡事故件数



合計 156件

図 時間帯別死亡事故件数(平成26年～平成30年合計)

### 時間帯別の死亡事故件数



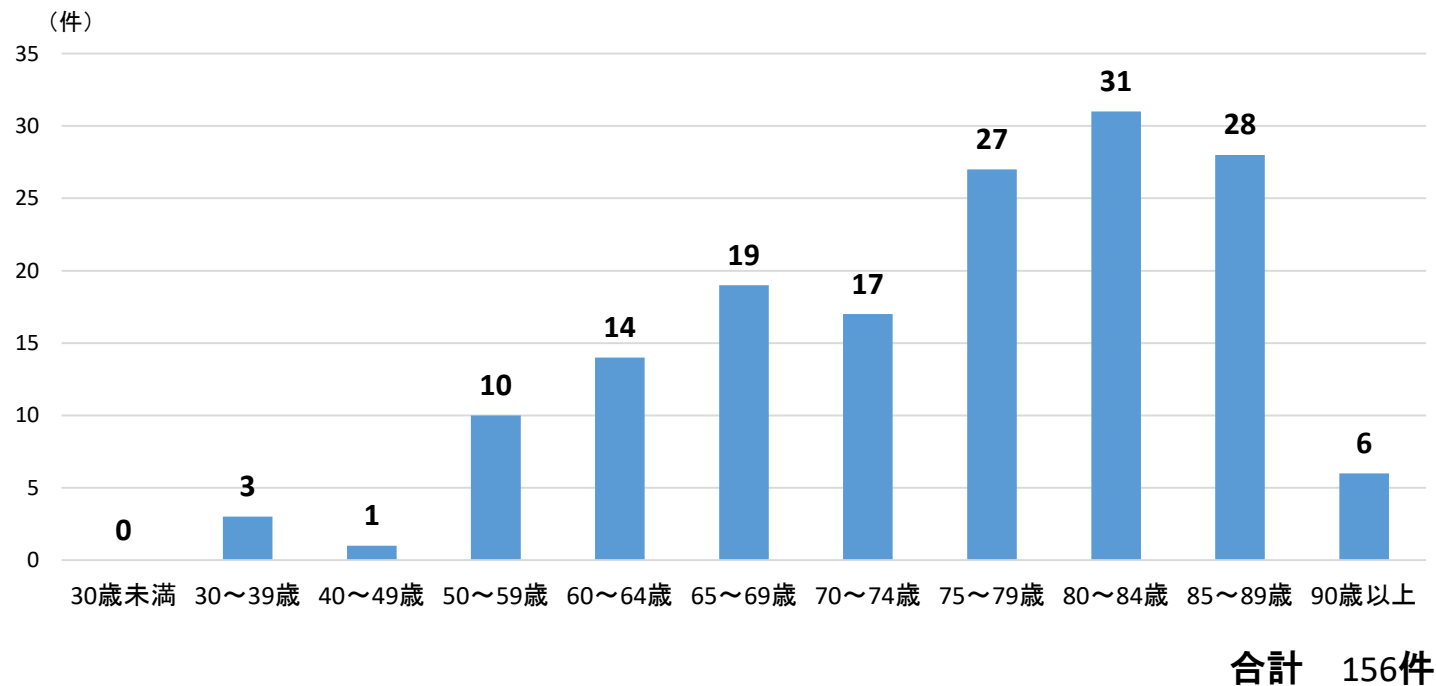
合計 156件

### 3 農耕作業用自動車の交通死亡事故

～ 運転者の年齢層 ～

図 運転者の年齢層別死亡事故件数(平成26年～平成30年合計)

#### 運転者の年齢層別死亡事故件数

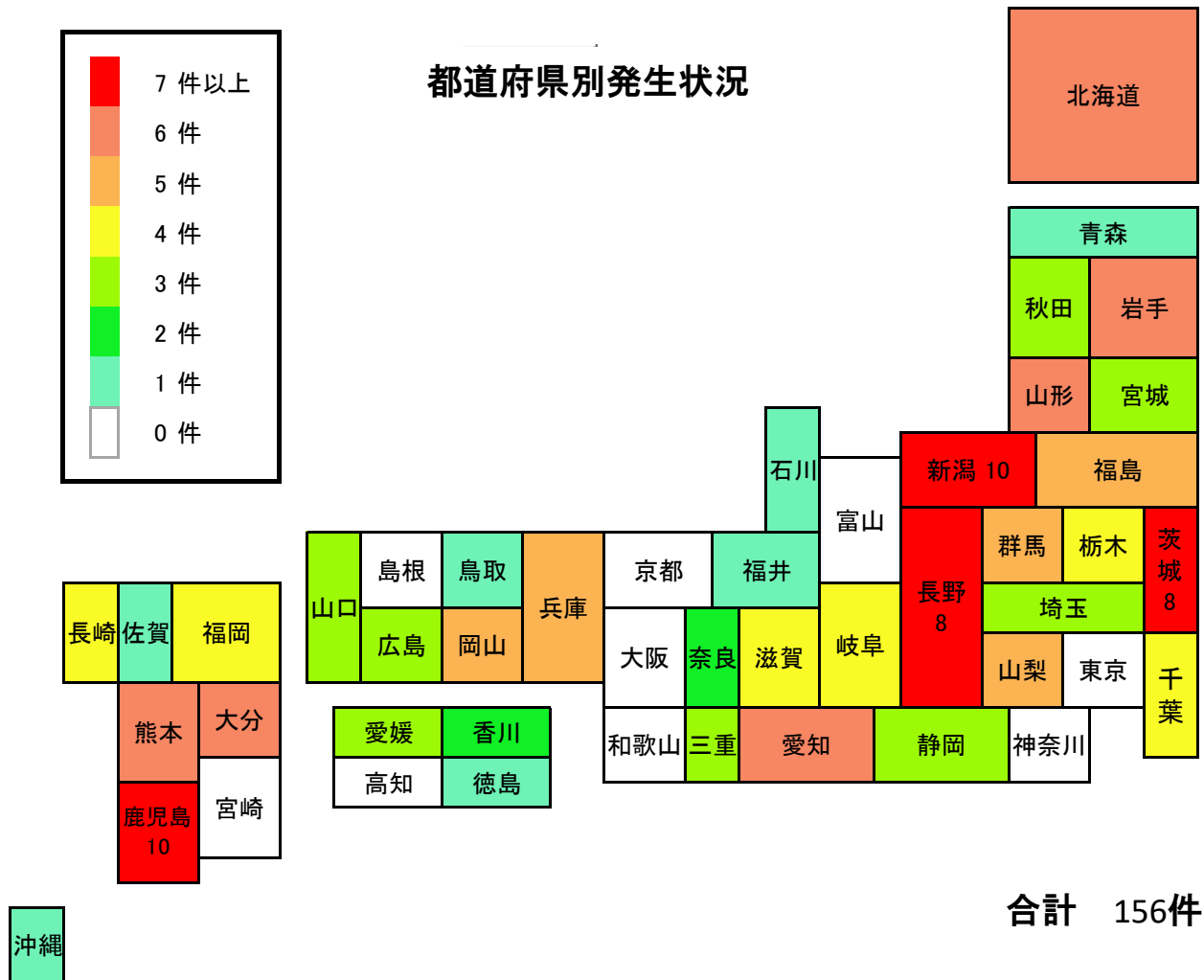


# 4 農耕作業用自動車の交通死亡事故

## ～ 都道府県別発生件数 ～

- 都道府県別では、新潟県(10件)、鹿児島県(10件)、茨城県(8件)、長野県(8件)で多く発生している。

図 都道府県別発生件数(平成26年～平成30年合計)



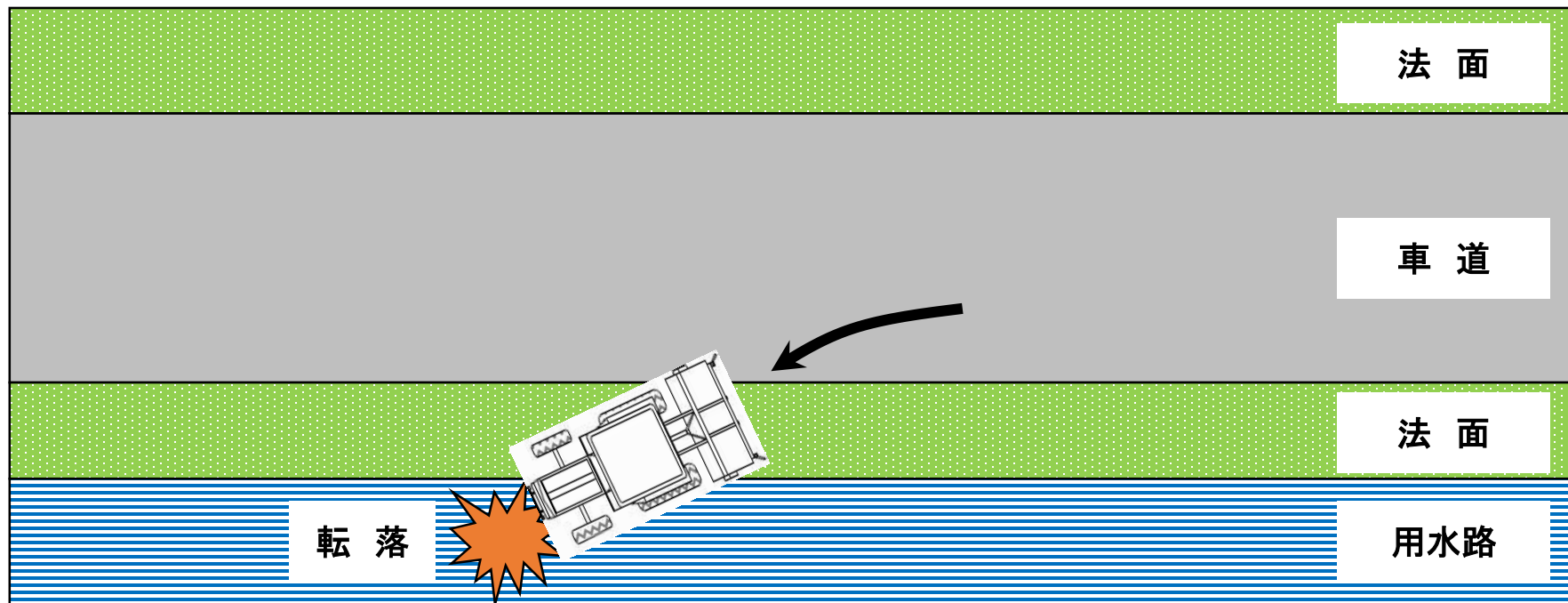
	件数
北海道	6
青森	1
岩手	6
宮城	3
秋田	3
山形	6
福島	5
東京	0
茨城	8
栃木	4
群馬	5
埼玉	3
千葉	4
神奈川	0
新潟	10
山梨	5
長野	8
岐阜	3
富山	0
石川	1
福井	1
山梨	4
愛知	6
三重	3
滋賀	4
京都	0
大阪	0
兵庫	5
奈良	2
和歌山	0
鳥取	1
島根	0
岡山	5
広島	3
山口	3
徳島	1
香川	2
愛媛	3
高知	0
福岡	4
佐賀	1
長崎	4
熊本	6
大分	6
宮崎	0
鹿児島	10
沖縄	1
合計	156

# 5-1 農耕作業用自動車の交通死亡事故

## ～ 交通死亡事故の主な事例(その1) ～

### 【交通死亡事故の事例(1)】

トラクターで道路を進行中、何らかの原因により道路外へ逸脱して用水路に転落し、車両の下敷きになって死亡(安全キャブ・フレームなし、シートベルト非着用、ヘルメット非着用)

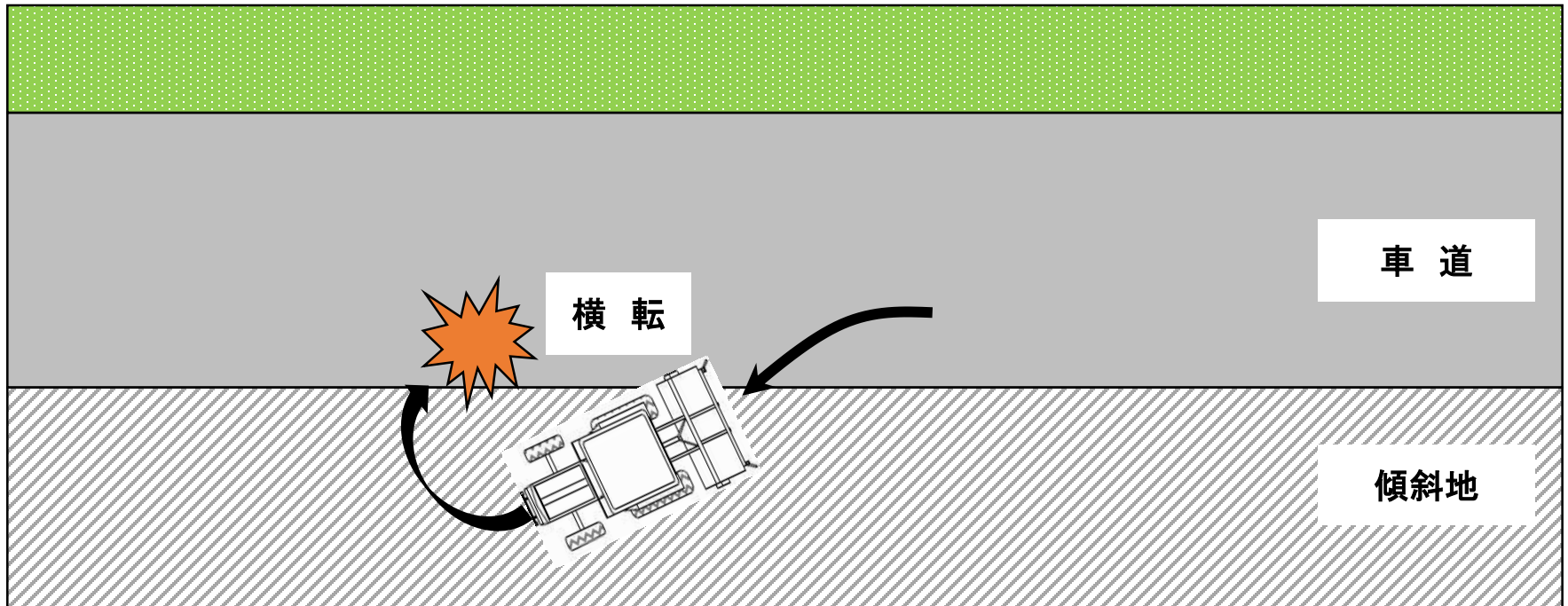


## 5-2 農耕作業用自動車の交通死亡事故

### ～ 交通死亡事故の主な事例(その2) ～

#### 【交通死亡事故の事例(2)】

トラクターで道路を進行中、何らかの原因により道路外へ逸脱して傾斜地(法面)に乗り上げ、横転した車両の下敷きになって死亡(安全キャブ・フレームなし、シートベルト非着用、ヘルメット非着用)



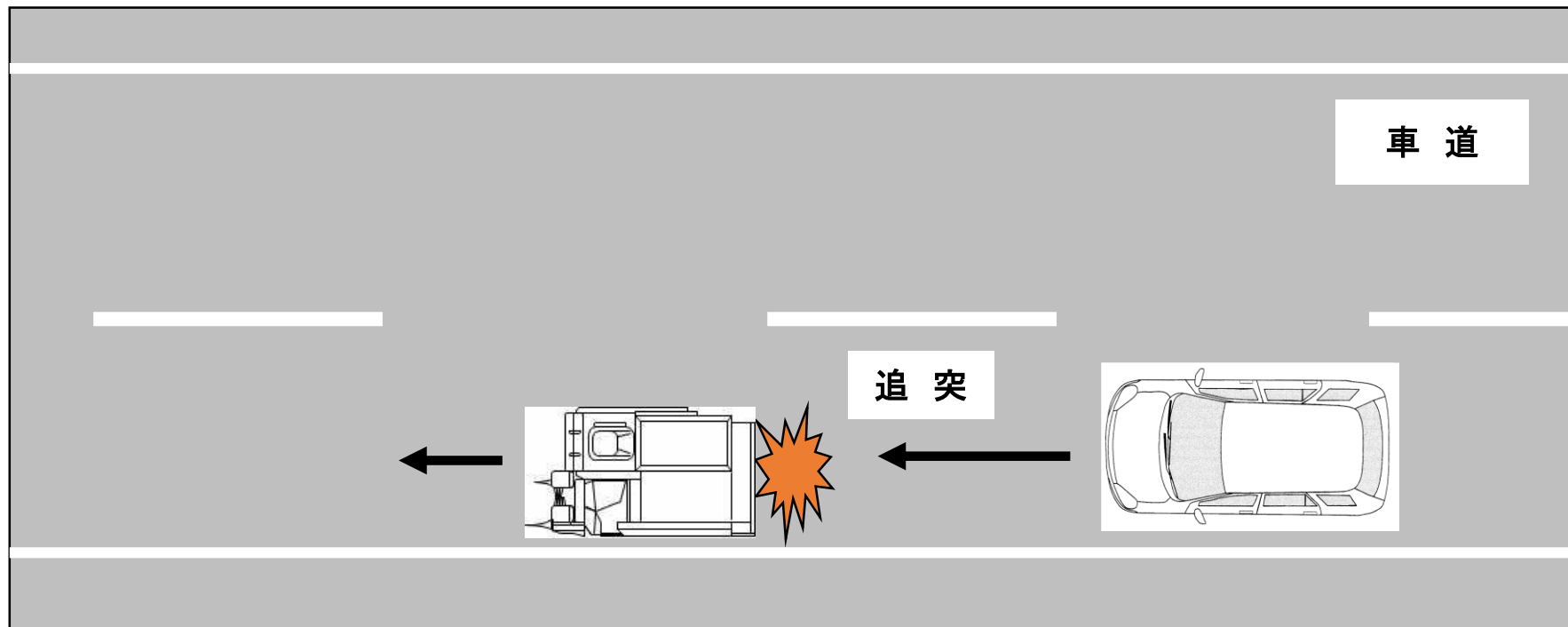
## 5-3 農耕作業用自動車の交通死亡事故

### ～ 交通死亡事故の主な事例(その3) ～

#### 【交通死亡事故の事例(3)】

夜間、コンバインで道路を進行中、後方から進行してきた車両に追突され、車外に投げ出されて死亡  
(車両後部に低速車マークの取り付けなし)

- 追突事故27件中15件が夜間(日没後)に発生。また、昼間においても3件がトンネル内の発生。





# 農耕作業用自動車の交通死亡事故

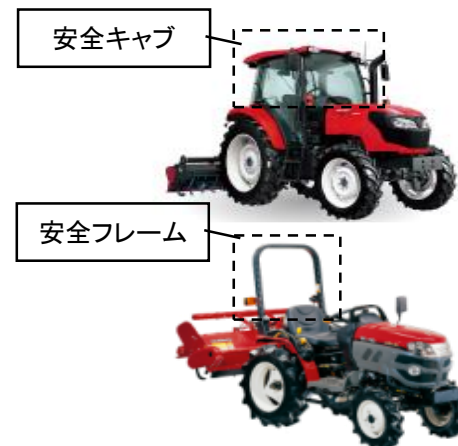
## ～ 安全対策 ～

### ◇ 確実な運転操作とブレーキ連結の確認

- ・ 農耕作業用自動車に関係する交通死亡事故は単独事故が多く、ハンドルやブレーキ操作誤りによって発生しているため、道路状況等に応じた確実な運転操作を啓発する。
- ・ ブレーキ連結をしていないと急旋回して路外逸脱等につながる恐れがあるため、道路走行時は必ず左右のブレーキを連結するよう啓発する。

### ◇ 安全装備(安全キャブ・フレーム)の設置とシートベルトの着用

- ・ 農耕作業用自動車の転落や横転時に車体の下敷きになる交通事故の防止には、車体に安全キャブ・フレームの安全装備が効果的であることから、安全キャブ・フレームの装備が整った農耕作業用自動車の使用を働き掛ける。
- ・ また、車体から投げ出されないよう、必ずシートベルトの着用を啓発する。



### ◇ 車体後部に低速車マークの取り付けや反射材の貼付

- ・ 追突事故の多くは夜間に発生していることから、後続車から見えやすい位置に「低速車マーク」の取り付けや「反射材」の貼付を働き掛ける。
- ・ 道路を走行する前に「低速車マーク」や「反射材」が泥で汚れたり、ロータリ一部等で隠れていないか確認するよう啓発する。

